

## 二本の尺八による 双韻

菅原久仁義作曲

単音楽器である尺八が互いに主張し合い、自由に語り合う。尺八の音は倍音が多く含まれており一音でありながらその音色は華やかさと複雑さを併せ持っている。

そんな二つの音の絡み合いが刺激的な、また心地よい「韻(ひびき)」を生み出すことを願って書いた曲です。

尺八 菅原久仁義 田野村聡

## 龍と詩人

宮沢賢治 原作 田原順子 作曲・台本

ある一つの美しい詩を巡って、千年の間孤独に生きた龍と若い詩人との間に交わされた広々とした会話。「本当に本当のこと」「本当に本当の美」を求める者、知る者たちの間に生まれる親和。宮沢賢治の追い求める世界の一つなのだろうとも思うのです。

琵琶弾き語り ナカムラユウコ

## お江と和姫

森広珠世作詞 常磐津文字兵衛作曲

この作品は、作詞者、森広珠世氏が平成26年度紀尾井邦楽塾に於いて作詞し、佳作を獲得した原作を元に作曲を致しました。セリフ重視の台本は私が「ハード浄瑠璃」と名付けるジャンルに該当します。このハードさに大変興味を惹かれました。

浅井三姉妹の最若年、江姫は徳川秀忠に嫁ぎ、その娘和子は後水尾天皇の中宮となって、明正天皇の生母となり、その血統は現在の皇室にまで続きます。この作品では入内を翌日に控えた和子が心を寄せる、箏の師であり増上寺の僧、俊慶と箏の連弾きを通して別れを惜しむ様から展開してゆきます。台本は「ハード浄瑠璃」の常で言葉が多く使われているため、テンポ良く曲を運ぶことに留意しました。また、内容として箏を扱っているため、箏の編入も考えましたが、ここは堪えて、常磐津節で箏の音を模倣する「コマギシ」の奏法を用いて箏の音を表現しています。浄瑠璃らしさを保ちつつ平易な言葉使いの歌詞によって、分かりやすい作品に仕上がっていると思います。

浄瑠璃  
三味線

常磐津兼豊  
常磐津文字兵衛

常磐津孝野  
常磐津紫緒

休憩